

第3回東大エネルギー・環境シンポジウム
「エネルギーと環境の調和した発展を求めて」
開会挨拶

東京大学生産技術研究所
所長 教授
野城智也



問題意識-1

- 東日本大震災
 - 未曾有の惨禍
 - 日本の技術への不信感
- 我が国のエネルギーのあり方が問われている
 - 国内問題として
 - それぞれの国にとっての示唆的事例として
- どのようにして持続的な経済発展が可能なのか？
 - 国際競争力長期低落
 - 食料も資源も海外依存



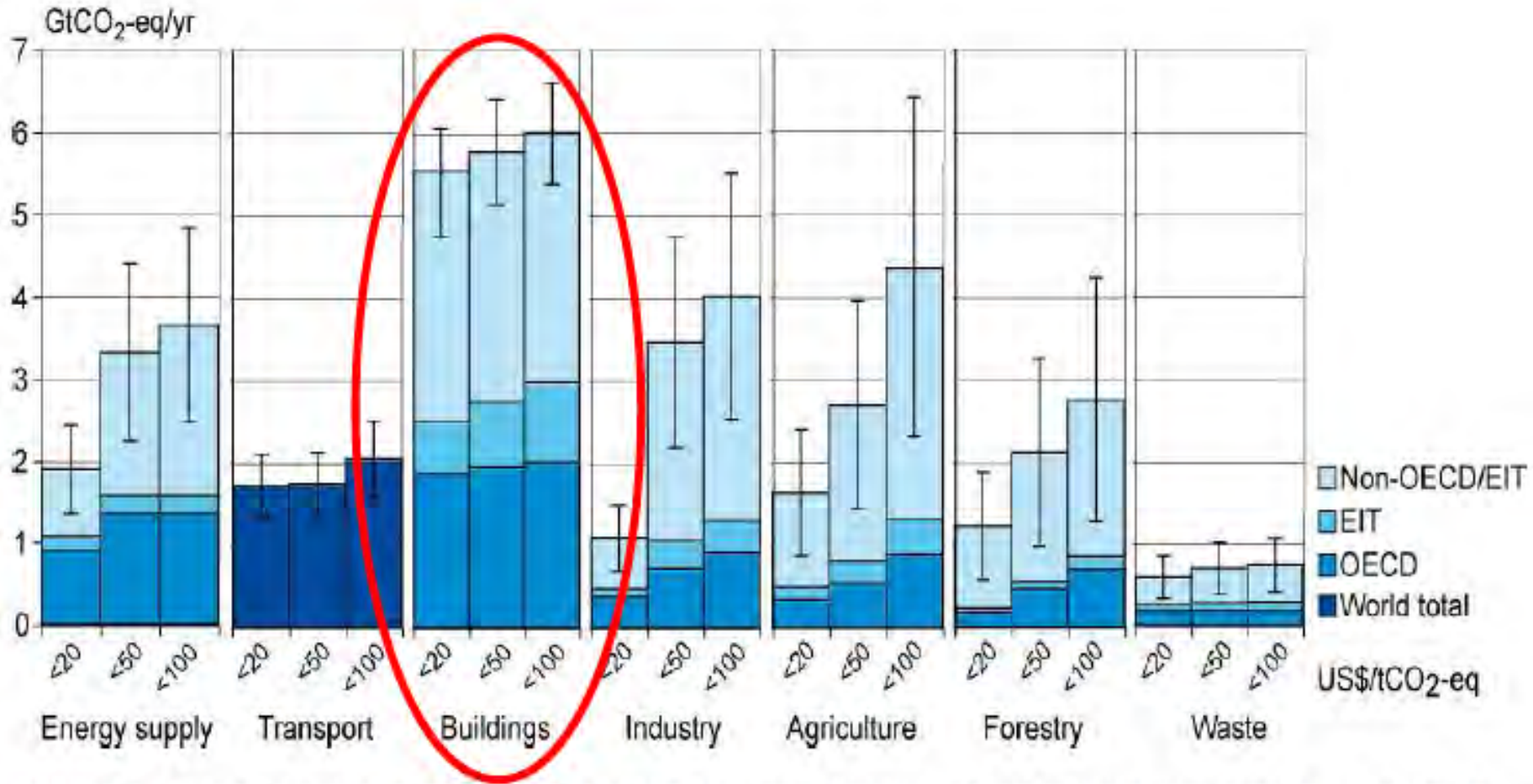
問題意識-2

- 地球環境問題は全世界的課題
- 我が国固有の事情にかかわらず対応していかなければならない
- グローバル思考のなかでの戦略構築
 - 一国行動主義からグローバル・アプローチへの旗手へ
 - 地球規模での機会創出への想像力と行動



例えば、

建築の省エネルギーは最も経済効率の高い地球温暖化防止策とされている



IPCC AR-4: Estimated economic mitigation potential by sector and region using technologies and practices expected to be available in 2030. The potentials do not include non-technical options such as lifestyle changes. {WGIII Figure SPM.6}

The above diagram from IPCC AR-4 indicates that the significant potential for energy efficiency improvements and greenhouse gas emission reduction from buildings is common among developed and developing countries, as well as in economies in transition.

COMMON CARBON METRIC

for Measuring Energy Use &
Reporting Greenhouse Gas Emissions
from Building Operations

COMMON CARBON METRIC

Protocol for Measuring Energy Use and
Reporting Greenhouse Gas Emissions
from Building Operations

建築の省エネルギーにCDMを導入するための
「物差し」づくりに関する議論がはじまっている



UNEP SBCI
Sustainable Buildings
& Climate Initiative



UNEP SBCI
Sustainable Buildings
& Climate Initiative

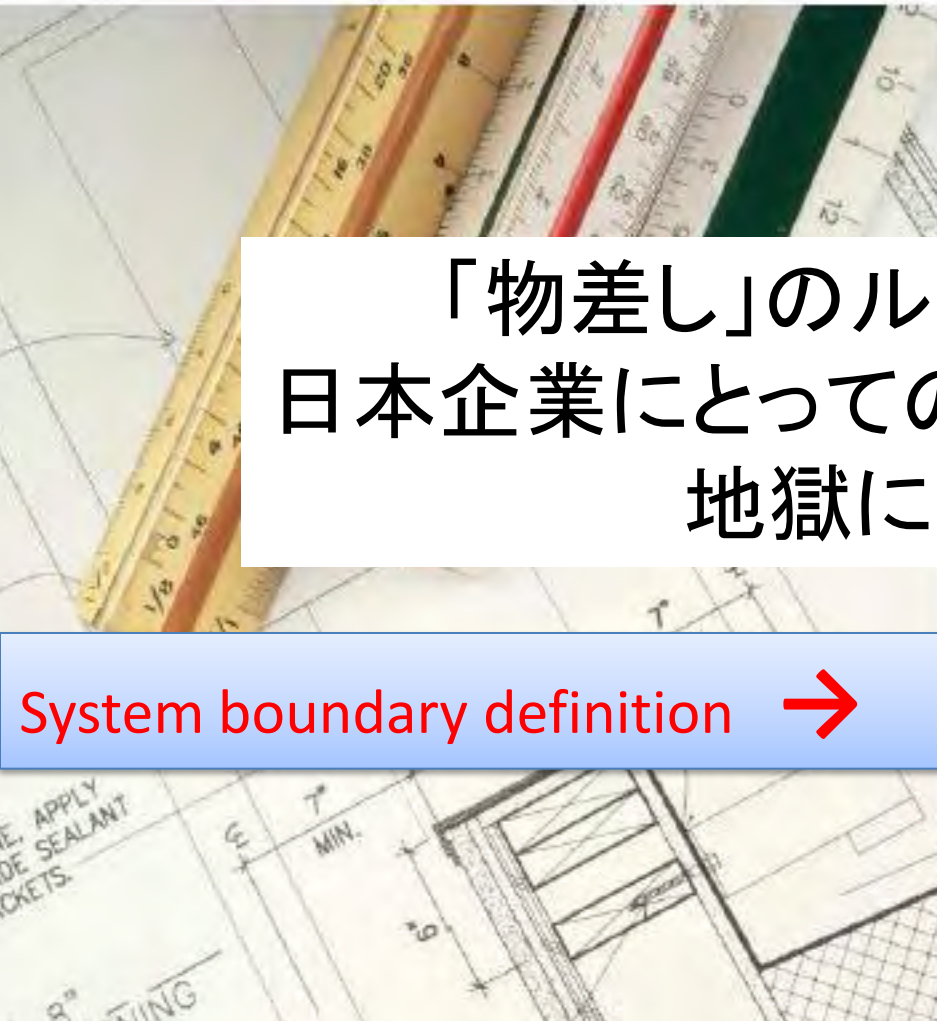


**WORLD
RESOURCES
INSTITUTE**

The Metric Perimeter



UNEP SBCI
Sustainable Building
& Climate Initiative



「物差し」のルール内容如何で
日本企業にとっての機会創出にもなるし
地獄にもなりうる

System boundary definition →

- Two measurements:

- Energy intensity

- Kg CO₂ eqv/occupant/year

- Direct on-site emissions:

- Purchased electricity

- Purchased heat/steam/cool

- On site fuel consumption

- Refrigerants consumption

Source: slides titled as "A Common Language for CO2 performance of buildings" presented by Stéphane Pouffary, Niclas Svenningsen at Construction Counts for Climate COP15 Side Event – Friday 11 Dec 2009

© 2011 Yashiro, All rights reserved

問題意識 - 3

複眼的・俯瞰的に理解し、
共感し、
実行に移すことが肝要



バイアスを廃した、事実に基づいた現状認識
実際に課題に取り組んでいる方々の知見を結集
(工学の基本)



プログラム

第1部 地球温暖化問題の現状と動向

第2部 エネルギーと環境の調和ある発展

第3部 産業界としていかに実現を目指すか



プログラム

第1部 地球温暖化問題の現状と動向

(1) 日本を取り巻く環境と進むべき道

東京大学大学院新領域創成科学研究科 特任教授
／キャングローバル戦略研究所 理事・研究主幹

湯原哲夫

(2) 地球温暖化問題の科学と総合的対応の必要性

東京大学 名誉教授／海洋研究開発機構 特任上席研究員

松野太郎



プログラム

第2部 エネルギーと環境の調和ある発展

(1) 震災後のエネルギー危機と大学

東京大学 理事・副学長 前田正史

(2) 日本のエネルギーと環境政策を如何に進めるべきか

キャノングローバル戦略研究所 理事長 福井俊彦

(3) エネルギー・環境問題における学術の役割

東京大学 名誉教授／地球環境産業技術研究機構
理事・研究所長 山地憲治



プログラム

第3部 産業界としていかに実現を目指すか

(1) 福島第一原子力発電所の事故と対応について

東京電力株式会社 代表取締役副社長 相澤善吾

(2) 震災後のエネルギー需給展望と対応技術

三菱重工業株式会社 代表取締役常務執行役員 和仁正文

(3) 創発的破壊：日本のパラダイム・チェンジ

一橋大学 イノベーション研究センター長・教授 米倉誠一郎

(4) 3.11 後のエネルギー対策---禍を転じて福となせ

東京大学生産技術研究所 特任教授 金子祥三



地道さとひたむきさ そしてHolistic Approach

現状は厳しい

技術が問題をもたらした

しかし問題を解決し未来を拓くのも技術

Holistic approach - Sir John Beddington の教え

もう一度原点にたちかえり

新たな連携と行動の出発点となる共通認識・ビジョン
構築のきっかけとなることを期待したい

